

田布施町農業支援センターの 取り組みを紹介します

特集 vol.2



令和8年4月27日に設立した田布施町農業支援センター（TASC）では、地域内外の多様な主体が農業に関わる仕組みづくり、新たな地域ブランド農産物の育成などに取り組んでいます。

今回はその取組の一部をご紹介します。

〒 経済課 農林振興係 ☎ 52-5805

新規就農者の確保

地域おこし協力隊を『アグリチャレンジ隊員』として採用し、町内の農事組合法人で事業継承を見据えた活動を開始しました。活動では農作業に従事するとともに、法人に新たに営農管理システムを導入するなど、山本協力隊員のデジタル分野での経験を活かしたサポートも行っています。

また、町の特産作物であるイチジクを生産する『JA 山口県田布施イチジク部会』とも連携し、就農希望者とのマッチング・現地見学会を実施しました。



イチジク部会の受け入れ



活動する山本協力隊員



かぼちゃの栽培講習会

地域ブランド農産物の育成

センターでは既存の農産物の振興のほか、新たな農産物の普及も模索しています。

今年度は、協同組合田布施地域交流館と連携して『冬至に食べるかぼちゃ』の栽培講習会・品評会を企画しています。

新たにチャレンジする人や、すでに出荷を行っている人と一緒になって、農業を中心に盛り上がる仕掛けに取り組んでいます。



田布施町をフィールドにした周南公立大学との新たなプロジェクトが始動!

町は3月26日、地方創生や地域の課題解決、地域人材の育成を目指して周南公立大学と包括連携協定を締結しました。この協定を基に、田布施町農業支援センターを中心に、町の農業や農村地域を活性化する『田布施町農業・農村コンテンツ活用プロジェクト』が始まりました。

このプロジェクトでは、周南公立大学の学生が主体となり、地域の課題を調査し解決策を提案します。8月8日（土）に行われたフィールドワークでは、学生がほ場を視察し、農作業を体験するとともに農業者や地域おこし協力隊との意見交換を通じて、プロジェクトの基礎情報を収集しました。

今後、企画立案に向けてのワークショップや課題の検証を進め、年度末にはプロジェクトの成果を地元農家などに発表する予定です。学生たちのフレッシュなアイデアに期待が高まっています。



法面草刈機操作見学



トラクター乗車体験



意見交換会

